

魔王の沙漠

児童まんがの歴史 その①

現 在の少年誌を見ると、どの挿話もストーリーまんがと劇画のオンパレードである。

しかし、昭和二十五年から二十九年ごろのそれは、絵物語によって代表されていた。いわゆる「沙漠の魔王」福島鉄次(少年)・「黄金バット」永松健夫(少年)・「少年王者」山川惣治(おもしろフック)・「地球SOSS」小松崎茂(少年)などで、彼らは、持てる力をフルに回転させ、はなばなし絵物語合戦を展開させていたものだ。

昭 和二十三年春、日本鋼管のサラリーマンとして、絵から遠ざかっていた福島氏は、

戦前、小学館で世話になった秋田書店社長・秋田貞夫氏と、くうぜん再会し、「おもしろいものを描いてみないか」

と誘われた。会社勤めのかたわら、秋田書店から、「コンゴの狂魔」「コンドル魔鳥」の二冊の単行本をだしたあと、「冒険王」創刊号(このときはまだ月刊誌でない)に「ダイヤ魔神」を発表したが、これが、爆発的な人気を呼び、ついに、「冒険王」は二号から月刊誌となつて、「沙漠の魔王」が読み切り連載の形式で登場となつたのである。



▶福島鉄次メモ◀

本名、加藤典。大正3年2月、東京に生まれ、19歳のころより、日本画家・岡吉枝氏に師事。のち小学館にさし絵を描く。「沙漠の魔王」のほか、「いなずま童子」(漫画王)など。

この雄大にして、かつドラマチックなストーリーの展開は、戦後の、委縮した少年少女に、大きな夢を持たせると同時に、絵物語のおもしろさを再認識させるなど、多大の功績をおさめている。もちろんその間にはストーリーにいきつまり、趣味で求めた愛刀のさやを払って、じつと見いり催促に氏の仕事をへやへ足を踏み入れた編集者をびつくりさせるという一幕もあるなど、作品に

以来、昭和三十一年二月号まで、常に「冒険王」の柱として巻頭の口絵を飾り続けたが、この作品に捧げたエネルギーの偉大さにはただただ頭がさがる。

内 容は、アラジンのランプを福島流にアレンジしたもので、ランプのかわりに香炉を登場させている。その香炉にサラの香木を燃やすと、煙の中から不死身の「魔王」が姿を現わすという

対する敵しさと愛情は、人一倍強いものがあつた。それだけに、他誌からの誘いにもおらず、ひたすら「沙漠の魔王」を描き続け、その余暇には、同じく「冒険王」に「K2帝国」「疾風剣士」といった作品も手がけている。

と もかくも、現在のまんがの基点が、この絵物語にはじまっているといふことは事実である。

『週刊漫画』編集次長 渡辺 博

初めて出た！カーマニア待望の書——全ページ挿絵入り！！

モータースポーツの用語集

編者 矢田平裕
判 新書判 280円

●レース、チューニングなどモータースポーツ関係の用語のすべてを分かり易く解説。1冊で800ページ以上見込

※絶賛発売中…品切れにならぬうちに書店でお求め下さい。

山海堂 東京都新宿区細工町15 振替・東京194982番